
奏でる

りよく

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
奏でる

【Nコード】
N9351Q

【作者名】
りよく

【あらすじ】
音楽一家に育ちながらも、暗い過去の出来事で奏でることをやめてしまった奏。^{かなで}
そんな時、異国の地での出会いが彼の運命を変えていく。

注意

本文中、韓国語 or 英文での表示がありますが全て（ ）で和訳表示付きです。
また日本語以外はYahooの翻訳機能での表示ですので、間違っ

ている場合もありますのでご注意ください。

異国の地の青年

さつき叔父のマネージャーの小野さんに連絡ついたのはいいけど・・。

まさか自分が海外で一文無しのうえ、迷子になるなんて・・。

「はあ・・しかも雨降ってきたし」

小野さんがすぐに迎えに来てくれるとのことだが、仕事だし、どれくらい待てばいいのか少し不安だ。

とりあえず雨をしのぐ為に近くの建物の屋根下に入って、座れそうな石に腰かける。

ーポツ・・・ポツ・・・。

雨音の一つ一つが集まって音が音楽に代わっていくように感じる。目を閉じて音に集中していくとクセの様に浮かんだリズムが鼻歌としてこぼれていく。

段々と激しくなる雨が自分の体を濡らしていることにも気付かないまま自分の世界にいと、さつきまで聞こえていた雨音がくぐもった音に変わる。不思議に思い目を開けると、目の前に傘を持った青年が立っていた。

「!？」

驚く自分を余所に青年はじつとこちらを見つめている。少し落ち着いてから見れば、服装や髪型などから日本人ではなさそうだなっと思う。

「・・・」

少しの沈黙の後、青年が傘を差し出してきた。

「えっと・・大丈夫だから・・」

愛想笑いと日本語で早口で答え、その場を離れようすると青年に腕を捕まれる。

「・・・」

その時、携帯の着信が鳴ると同時に驚いた青年の手が離れると俺は急いで待ち合わせ場所へと走った。

「追いかけてはこないみたいだな・・・」

少し後ろを振り向くところらを見ているものの青年はその場から離れなかった。

「わぁ！ごめん、遅くなって・・・」

びしょ濡れの俺を見て小野さんは慌てて車内へと促しタオルを渡してくれる。

「俺こそすみません、仕事中なのに」

「いえいえ、前も仕事した相手だから大丈夫ですから・・・とりあえずホテルへ戻りますね」

「はい」

ホテルへ着くと同時に小野さんの携帯が鳴り、ごめんねと謝って仕事に向かった。いった。

俺は部屋に入るとシャワーを浴びてほっとため息をつく。

「・・・さっきは驚いたなあ」

クリーニングに出すため濡れた服を掴むと、ズボンの中にパスポートを入れていたのを思い出す。

「って、あれ？」

確か小野さんに電話した時はあったのに・・・。

「まさか・・・」

あの場所に落として来たのか？自分のミスに嫌気がさすがほって置くわけにも行かず、タクシーに乗ってさっきの場所に向かう。

薄暗い中、さっきいた場所に行くと・・・。

「・・・確かここ」

座っていた所や周囲を探してみるが見当たらない。

「・・・ないなあ・・・」

金とかなら諦めるけど、さすがにパスポートは困る。こんな時はどうするんだっけ・・・まず叔父さんに・・・いや仕事中だし大使館か・・・

？

「?????（戻ってくるなんて）」

声が聞こえ振り向くとさっきの青年が立っていた。

「・・・」

青年はポケットからパスポートを取出し俺に向ける。

「あ！これ俺の！」

しかし手が届く寸前で青年は手を引っ込め、逆の手で俺の腕をつかむとどンドン引っ張っていく。

「ちよっ!?!」

「?????（着いてきて）」

はあ!?! ハングルなんて解んないし・・・。助けを求めようにも雨の為、人通りは少ない。諦めモードで俺は引っ張られるまま青年の後ろを着いていくことにした。

>>>Next

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9351q/>

奏でる

2011年10月7日13時57分発行